県外派遣報告書

審判員名	中田　愛	所属　　U18北部
大 会 名	令和６年度全国中学校体育大会第５４回全国中学校バスケットボール大会	
期　　間	令和6年8月22日（木）～8月24日（土）	
会　　場	アオーレ長岡、長岡市市民体育他	

スケジュール

期　　日	内　　容	場　　所
7月25日（木）、29日	審判会議、研修会	zoom会議、参加者自宅他
8月22日（木）	予選リーグ	長岡市市民体育館
8月23日（金）	決勝トーナメント	長岡市市民体育館
8月24日（土）	準決勝、決勝	アオーレ長岡

会議　講義　内容

研修① コール・ザオヴィアス　村上氏、古畑氏
「オヴィアス」とは、明らかなもの＝誰が見ても判定すべきと思われる事象＝インパクトがある＝「コール・ザ・インパクト」
正しい判定を積み重ねるために必要なこと
・Keep doing basic mechanics　（ベーシックなメカニクスをやり続けることが大切）
・Position adjust （プレーに対してきちんとポジションとアングルを求めること）
→2or3の際など、シュートを打つ瞬間にずれてみるというわけではない
初めましての相手と一緒に吹いても目が当たっていないということがないように、ベーシックメカニクスを遂行する
Basic mechanics →何がBasicなのか、なぜそれが必要なのか本当の意味で理解する
そしてTry &Errorを繰り返しながらスキルを身につける
ゲームを通して、Basic mechanicsを遂行する＝ゲームコントロール、クリーン・ザ・ゲーム　につながる

研修②ペイシェント&ケイデンス　平出氏、岩井氏
ⅰ.プライマリーの判定プロセス　ペイシェント＝判定のプロセス（絵ができてから吹く）
プレーのStart/Development/finish/Decision
ペイシェント＝すべての情報に基づき、プレー全体を分析、慌てず笛にしない
・フィニッシュ＝着地をしたかどうか　着地までを勇気を持って慌てて判定しない（クイックホイッスルはできるだけなくす）
ⅱ.セカンダリーの判定プロセス　start/devlopment/finish/decision→nocall/decision セカンダリー
ケイデンス・ホイッスル＝プライマリーの１００％じゃないものをクルーでカバー　ゲームに必要なものをdecision
セカンダリーがfinish・着地で吹いてしまうとプライマリーのメンタルや選手の目がそのプライマリーに向いてしまう
decision,nocallを踏んでからセカンダリー、ケイデンスを行うことで、レフリーのメカ、クルーワークもわかってもらえる

研修③処置ミスゼロに向けて～クルーでの取り組み～　市川氏、山本氏
1,ミスが起こる状況を知っておく
2,ミスを防ぐ術をクルー、個人で持つ
処置ミスを防ぐために、正しいルールの理解とクルーの約束事が大切

研修④処置ミスゼロに向けて～TOとの連携～　尾形氏、古畑氏
TOと審判はひとつのチーム
TOと連携をとることで、ゲームの進行がスムーズ、スピーディーになる
レポートをする時に、TOのどの人とアイコンタクトを取るのか確認しておく
ex)ショットのボールがリングに触れたかどうか
TO（SC)の判断が難しい現象が存在する（角度など）そのような時こそ、TOとクルーと様々な角度から正しく処置する
できる限り素早く正しく行うが、どのような言葉を用いるのか考える

担当試合	期　　日	8月22日（木）	男子　(女子)	
	対戦カード	相模女子（神奈川）　ＶＳ	就実（岡山）	CC　U1　(U2)
	相手審判	CC.土江翔平 氏（島根）　U1.穴見健吾 氏（大分）		

ミーティング内容　　主任　平澤明男 氏（新潟）

PGCでは、ZOOM研修で行ったことに加え、マンツーマンペナルティへの対応について確認した。また、プライマリーを尊重すること、ただしどうしてもゲームを通してダメなものがあったらケイデンス（セカンダリー）CCMを持って行う。
TOミーティングを試合の４０分前に行い、中学生にわかりやすいようにコールして、再開もTOとアイコンタクトをとってから進めることを確認した。
全体でのゲーム後のミーティングでは、クルー全体で共通認識を持ちながら判定を積み重ねていったことで、プレーはタフに、ゲーム運営はスムーズに行うことができたこと、初めて組むクルー同士、試合中のアイコンタクトなど相手がどう感じているのかプレーを見ながらも感じることが大切であることをお話しいただいた。
個人的にいただいたフィードバックでは、CCとＵ１に比べて止まっている時間が長かったため、ポジションアジャストを細かく行えるといいとご助言いただいた。判定はできているがより良い角度でより納得のある判定ができる位置をもっと感じられるとよかった。

担当試合	期　　日	8月22日（木）	男子　(女子)	
	対戦カード	錦城（石川）　ＶＳ	メリノール（三重）	CC　U1　(U2)
	相手審判	CC.平澤明男 氏　U1.高橋正博 氏		

ミーティング内容　　主任　平澤明男 氏（新潟）

PGCでは、処置ミスゼロを目指して行うこと、交代があった時のゲームの再開はしっかりコート上の人数を確認してから始めること、フリースローの本数をクルー全員でアイコンタクトをとってからボールを渡すことを確認した。
クルー全体での反省では、後半のファウルの取り上げ方を前半からできるとよかったとお話があった。前半もファウルは積まれていたものの、キーマンに対しての手の出し方などチームが納得できていなかった部分があったと感じる。もっと、チームのやりたいことを感じ、そこの妨げになるものを整理したかったと全体で話があった。
個人としては、ハーフライン際でバイオレーションがあった時に、次再開するレフリーにどちらのコートからのスローインなのか素早く伝えられるとよかった。また、クロックに対する意識をより正確に覚えて、訂正する必要があるのかどうかすぐに判断すべきだった。

担当試合	期　　日	8月23日（金）	男子　(女子)	
	対戦カード	御田（愛知）　ＶＳ	就実（岡山）	CC　U1　(U2)
	相手審判	CC.古畑咲 氏（本部：東京）　U2.関凌郁 氏（長野）		

ミーティング内容　　主任　高橋和也 氏（宮城）

PGCでは、初日を経てのチーム情報を共有した。特にペイントエリアを厚くみられるように、背の高い選手がキーマンのためその選手がインサイドにいる時はリードは素直にローテーションを開始できるようにとメカニクスの確認を行った。プライマリーの判定を尊重するが、角度によって見づらいことがあるため、アングルを持っていたらケイデンスホイッスルで自信を持って判定するようにとお話しいてくださった。TOの生徒たちともアイコンタクトを行い、丁寧に確認してから再開できるようにとお話があった。
試合後の全体のミーティングでは、吹いて基準を示してもそのファウルをやめてくれなかったため、根気強く拭き続け田ことがよかったとお話しいただいた。ただ、いろんなタイミングで選手に声をかけていればもう少しファウルが減った可能性もあったかもとクルーで話をした。
個人としては、笛の大きさをクルーに合わせることができたらよかった。CCがセカンダリーで吹いてくれたものを自分で吹けるように映像をみて分析していく。また、CCがゲームに入る前からクルーの雰囲気作りを行なってくれて、とても安心感のある中で１試合を終えることができたため、自身がCCになった際に同じようにやっていきたいと思った。

全体の感想
この度は、全国中学校バスケットボール大会へ派遣していただき有難うございました。中学生とは思えない身体能力の高さやスキルの高さに感心させられることが多くありました。初めての全国大会ということで緊張もありましたが、コート上では現状持っている力を出すことができたと思います。また、1試合終えるたびにフィードバックしていただいたことを次の試合に活かすことができました。同時に、多くの課題も明確になりました。プレゼンテーション・POCのみせ方、声の使い方、笛の強弱、コミュニケーション、判定までのプロセス等、自分の目で感じたことを必ず今後の活動に活かしていきます。 　今大会A級やS級の上級の審判の方々と吹かせていただいたり、一緒に試合をみさせていただきました。様々なカテゴリーを担当される方々が、アンダーカテゴリーを吹く際にどういったところに気をつけているのか、コート上ではどういったところに気を配ってゲームを進めているのか、様々な角度から学ぶことができました。 　最後になりますが、大会に向けて長期間ご準備いただき、大会期間中も朝早くから夜遅くまで大会を運営していただきました新潟県バスケットボール協会の皆様、審判担当の佐藤様をはじめとした審判員の皆様、また、今大会へ派遣してくださいました眞榮喜審判長をはじめとする埼玉県バスケットボール協会の皆様と、日頃よりご指導いただいております埼玉県審判員の皆様へ心より感謝申し上げます。ここで学んだことを今後の審判活動に必ず活かします。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。